



CQM(超短期経済予測モデル)

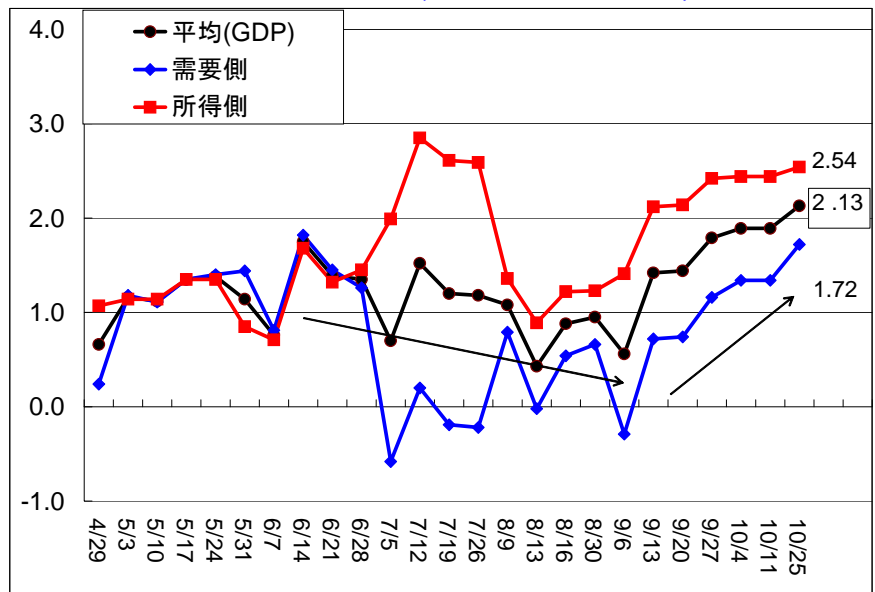
熊坂侑三 (APIR リサーチリーダー, ITエコノミーCEO)
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:kumasaka@iteconomy.com

米国経済(週次)予測(2013年10月25日)

ポイント

- ▶今週(10月25日)と次週のCQMは政府閉鎖期間に発表されなかった8月、9月の経済統計を更新することによって、政府閉鎖の影響を受ける前までの景気動向が分かる。
- ▶政府閉鎖の経済への影響は10月の雇用統計の更新以降にCQM予測に現れる。
- ▶景気は政府閉鎖前まで堅調に拡大していることがわかる(図表)。
- ▶政府閉鎖により、エコノミスト・消費者は今後の景気見通しに悲観的になった。
- ▶連銀が10月30日のFOMCミーティングで資産購入の縮小を延期する可能性は非常に高い。
- ▶もしも、政府閉鎖がなければ10月のFOMCミーティングで資産購入の縮小が決定される可能性は高かったといえる。
- ▶今回の政府閉鎖は“百害あって、一利なし”であった。

CQM 予測の動態：実質 GDP の成長率
2013年7-9月期 (%、前期比年率換算)



<政府閉鎖まで堅調に回復していた米経済、百害あって一利なしの政府閉鎖>

今週(10月25日)のCQMは政府閉鎖期間に発表されなかった8月の建設支出、貿易収支、9月の輸出入価格、雇用統計、製造業財出荷(速報値)を更新した。今週のCQM予測は7-9月期の実質GDP伸び率を支出サイドでは1.34%から1.72%へ、所得サイドでは2.44%から2.54%へそれぞれ上方に修正した。両サイドからの平均実質GDP伸び率は1.89%から2.13%と上方に修正された(図表)。

10月の雇用統計を更新するまで、政府閉鎖の経済への影響はCQM予測には現れない。図表に見るように、実質GDPでみた景気は9月中旬から堅調に回復していることが分かる。今週のCQM予測では支出・所得両サイドからの平均実質GDP伸び率が2%を超えるようになった。GDP以外の国内需要、最終需要などの実質アグリゲート指標で見ても景気は8月中旬から上昇トレンドを形成し、いまでは1%~2.5%の成長率を示している。

しかし、政府閉鎖により連銀エコノミストばかりか消費者も今後の景気見通しに悲観的になった。10月のミシガン大学消費者センチメントは9月より4.3ポイント低下し、昨年12月以来の低水準となった。連銀エコノミストは10月30日のFOMCミーティングにおいて、9月のFOMCミーティングと同様に資産購入の縮小を延期するだろう。政府閉鎖の経済への影響はまだCQMには現れないが、政府閉鎖までは経済が堅調に拡大していたことは確かである。このような、状況において真の問題解決が何もなされず政府閉鎖が行われ、エコノミスト・消費者が今後の景気拡大に対して悲観的になったことは米経済にとって非常なコストとなった。もしも、茶番劇の結果ともいえる政府閉鎖がなければ、連銀エコノミストも10月30日のFOMCミーティング時において景気が9月のFOMCミーティング時よりも改善していることを理解したであろう。その結果、これまでの異常な金融緩和政策の正常化へのきっかけをつけることが10月30日のFOMCミーティングでできたはずである。このことは、次期連銀総裁にとっても素晴らしいプレゼントになったはずである。全く、今回の政府閉鎖は“百害あって、一利なし”であった。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690